

優秀賞

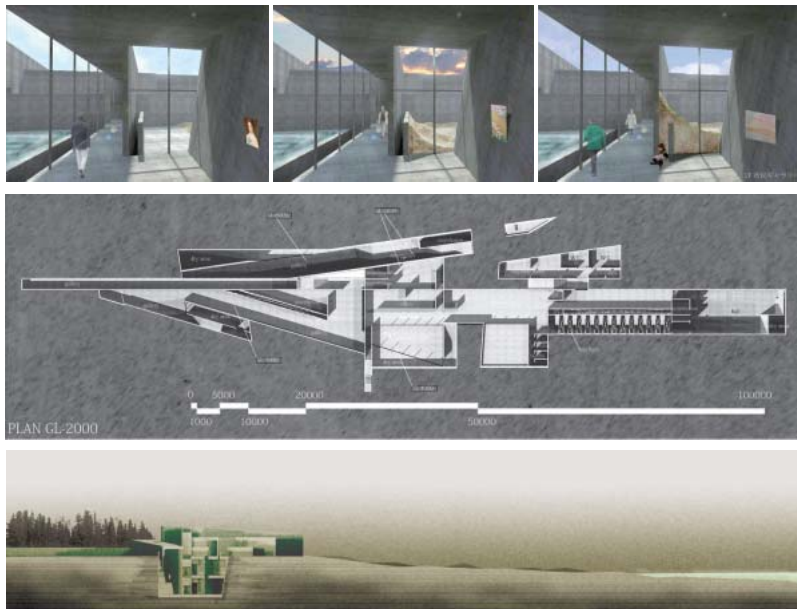
特別審査委員賞



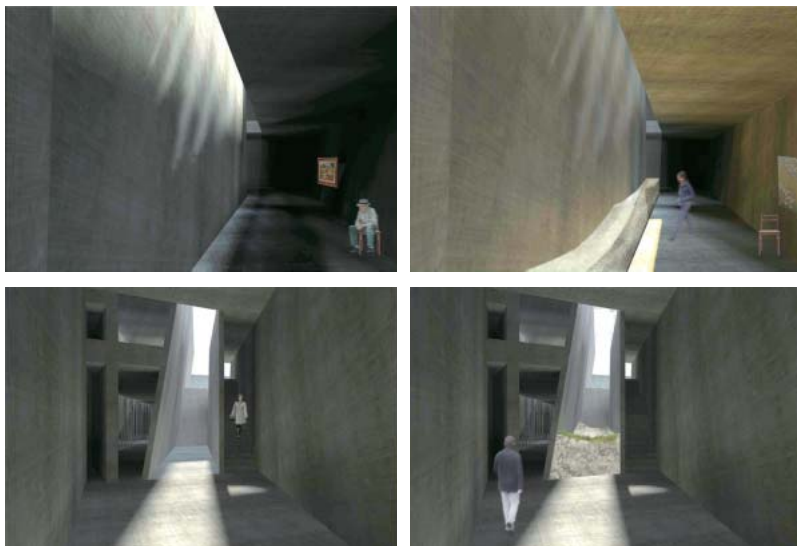
## 増幅と侵食—変容する建築—

竹田 純平 (たけだ じゅんぺい)

千葉大学 工学部 デザイン工学科建築系



静岡県南部沿岸遠州灘砂丘。人と自然との疎遠な関係により荒廃し海側からの自然の猛威を塞ぎ止めきれなくなった海岸林は、決壊により人々の生活を脅かしはじめた。この砂丘とそれに面する荒廃した海岸林との境界に、海岸林の保護・植林の拠点となる機能及び滞留機能を備えた建築を設計する。海岸林が失った防護の機能を躯体に受け持たせるように建築を置き補完することで、建築は海岸林に代わり海側からの莫大なエネルギーと直接ぶつかる。このエネルギーはいわばこの地に恒久的に存在する固有の自然的・気候のコンテキストである。このエネルギーの建築による増幅及び建築への侵食により起こる空間の変容と体験を軸として設計し、この地の自然の豊かさの再発見と、海岸への回帰を促す。



**講評** 静岡県遠州灘砂丘では、莫大なるエネルギーを持つ自然の猛威によって海岸林が荒廃しつつあり、人々の生活が脅かされ始めている。そこで、海岸林の保護・植林の拠点・自然の再発見・人々の海岸への回帰の機能を備えた建築を創り出そうという訳である。海からの猛威に対抗し、更にはそれを取り込んでしまおうという計画の起爆剤となる建築である。それは何と荒々しく魅力的な発想ではないか。竣工後朽ちていくだけの建築が多い中、砂に埋まり、あるいは砂に削られ、自然と対峙した痕跡が時の経過と共に変容し、建築へと刻み込まれていくのだ。建築が姿を変えていく彫刻そのものであるかのように。人々は自然に畏怖の念を抱きながら理解を深めていく。そして荒廃した海岸林が復興した時、その建築が人と自然とのコラボレーション作品として、人々に親しまれる存在になっていけば、作者にとって本望であろう。

(審査員：安達 文宏)